

教職員向け(主に中学校・高等学校)

その情報は、 友達だけではなく、 「世界中の人々」にも



中学生・高校生の間では、インターネット上に情報を書き込み、それを友達と共有し合うサービスが、普段のコミュニケーションの一端を担っている状況も見受けられます。

その一方で、インターネットの持つ「公開性」という特性によって、本人の思いもよらないトラブルも起こっています。

「公開性」について

インターネット上に公開した情報は、世界のどこからでも閲覧することができます。

しかし、幼いころからインターネットを日常的に使っている子どもたちの中には、それが友達や家族といった身近な人にしか繋がっていないと勘違いをしてしまうことも少なくありません。

【公開した個人情報が悪用された例】

- ・投稿した写真の位置情報から住所を特定され、ストーカー被害に遭った。
- ・生年月日などを書き込むことにより、パスワード等が推測され、乗っ取り被害に遭った。

異なる価値観の存在

インターネット上には、年齢や性別、職業が異なる様々な人がいて、多くの価値観や考え方に触れることができます。

一方、インターネットの特性である「公開性」を十分に理解できていない子どもが軽はずみに書き込んだ内容について、正義感や時には悪意を持って制裁を加えることによりサイトが炎上するなど、危険な一面も持ち合わせています。

子どもたちにインターネットを使用させる際には、前号で紹介しました「情報モラルの判断に必要な要素」のうち、「日常のモラル」を十分に身に付けさせることに加え、インターネットは世界中の人と繋がっているのだという「公開性」についても十分に理解させる必要があります。



指導の要点

ネットパトロールにおいて、不適切な書き込みとして最も検出が多いのは「個人情報の公開」です。個人情報の流出は、悪意ある人に利用され、犯罪被害や炎上などのネットトラブルに巻き込まれる原因ともなるため、情報モラルを指導する際に、子どもたちに、自らの書き込みの内容を確認させ、該当するものがあつた場合はすぐに削除させるなど、具体的な指導を行いましょ。

◎本資料は北海道教育委員会とピットクルー株式会社が平成28年8月に作成したものです。
子供たちのインターネット利用に関わる相談等がありましたら、下記のURLまでご相談ください。

◀北海道教育委員会ネットトラブル未然防止のための総合ヘルプサイト▶

<https://webreport.pit-crew.co.jp/hokkaido/helpsite/>